



## 変化の年を振り返りましょう

もう少しとまったら書こうと思いつつ、まとまりがつく前に、どんどん先に進んでいく状況の中で、うろうろしているうちに4月の7次元ライフセミナーが終わってしまいました。

いよいよ来月から、今年のヌメロロジーナンバーである「5」が色濃くでる1年へと移行していくわけですが、みなさん、変化の準備はできていますか？

セミナーの中でもお話しましたが、私は、その年のヌメロロジーナンバーと同期する数の影響を受ける月日に生まれているので、毎年毎年、その年の性質を帯びた人生を送ってしまっています。

良いのか悪いのかわかりませんが、私のような仕事をしていると、それは「わかりやすい」ということになるかと思います。

ですから、私にとっては好都合なのです。

しかし、自分自身に大きな変化がさしかかってくると、そんな「好都合」などという悠長なことは言っていられません。

まさに、今年は「そんな悠長なことは言っていられない」というくらい、大きな変化を経験する年になるのではないかと、内心ワクワクしつつ、未知の領域に入っていくことに対する警戒感も持ち合わせている感覚です。

と、いうことで、私と同じように、今年の数の影響と同期するかどうかを見定めるため

に、この先を読み進む前に、次の計算をしてみてください。

誕生月 + 誕生日 = 9

この計算が成り立つ方は、今年は「5」つまり変化の年回りになるということを先にお伝えしておきますね。

え？8はどうなの？

7は？

3は？

と、気になる方もいると思いますが、その場合は、ヌメロロジーの素晴らしいレポートがありますので、それを入手していただければと思います。

※シャーロットのヌメロロジー

ドネーション(目安1000円)

ご希望の方は、HPにあるバナーをクリックしてお申込みください。

もう、すごい変化の波がやってきています。

皆さんにも変化の時の参考になるかと思しますので、7次元視点で、今の状況を書いていこうと思います。

すでに、このような「5」の年の変化は、2000年に入ってから3回経験しています。

2003年  $2+0+0+3=5$

2012年  $2+0+1+2=5$

続いて、1994年、1985年、1976年、1967年、1958年

こんな風に9年ごとに変化の年「5」が来ていました。

1958年、3歳の時に、人生の大きなトラウマを体験したとともに、オルガンを弾き始めたのがこの年だったということを覚えています。

この時のトラウマは、私に「女性として自立すること」を強く促すものとなったということは、その後行った多くのワークの中にも現れ、未来と過去の出来事は記憶の時間軸の中で一致させることができるという答えを導き出すに足る、有意義な出来事だったと、今では変換されています。

(よって、トラウマと書くことには御幣がありますが、一般的な表現をもちいることで、少しだけわかりやすくしました。)

1967年は、私が12歳の年ですが、この年に私は、大きな変化を経験しました。

じわじわと「独立しよう」と考え始めたのです。

両親の元を離れて東京の私立中学に入学し、祖母の家に下宿しながら学校に通い始めた年です。3歳のトラウマが、自立を促す最初の行動をさせるための発火点となったのがこの年でした。

1976年は21歳になった年ですが、この年に大学の専科を中退し、経済的な自立をするべく、ダンサーとしての仕事を始めました。

3歳、12歳とちやくちやくと実行してきた私の課題ともいえる「自立」は、9年サイクルの次の5の年に形骸的な自立ではなく、内的な自立を促す出来事としてやってきました。

この、1985年ですが、この年の8月12日に起きた日本航空123便墜落事故(世界最大の航空機事故)の影響で、私のチャネリング能力が開き始めました。

そういった意味で、この年はすごい変化の年だったと言えます。

続いて1994年は、コズミックダンスの公演を始めた年でした。

チャネリングを始めて以来、舞台から遠ざかっていたのですが、この年からセラピーのためのコズミックダンスを作品化して上演することにしました。

そしてミレニアムを迎え、2003年になると

SI-V(シンプル化インタビュー)が、5次元思考の下地として、出来上がってきました。

この年の大きな変化は、右脳型コミュニケーションから、「思考」という左脳型コミュニケーションに転換していったことです。

ここで、少し言及しておくことにしますが

よく、私は右脳人間なのとか、私は左脳リケジョなの…などと表現することがありますが、今の時代にスピリチュアルな視点を求めている人たちの多くは、この右脳、左脳の双方の活性化をもくろんでいて、右脳左脳のデュアリティから、ノンデュアリティへとシフトすることを一つの目的にして生まれているのではないかと思います。

例えば、2003年以前に私を知っている人は、私のことをほとんど「感性で生きている」人と見ていたと思います。

本当に、それまでは直感や感覚で物事を行っていた感がありますから、

「どうして、そうしたの？」と理由を聞かれても、なかなか理由が答えられない、あるいは、理由などどこにもなくて、感性の赴くまま行動していた…、別の言い方をすれば

「好き、嫌い」が判断基準となっていたと言えるかと思います。

こういう方は、この読み物を読んで下さっている方の中にも結構いるのではないかと、思います。

そして、その片側の脳で生きている自分を、どこかで、「しょうがない奴」といった感じで受け止めて「ま、でも、それでも別に問題ないからいいわ。」として、あるいは別の脳を開発しなければ統合に至らない！とばかりに、自分の傾向とは異なることを学ぼう、身に付けようとしているかもしれませんよね？

どちらにしても、双方が使えていない…として、一般的にカテゴライズされている「文科系」とか「芸術系」とか「理数系」等に、当てはめて、それでいいやと思うようにして、自らこういったカテゴライズの洗脳に侵されることを許しているかもしれません。

私に大きな脳内変化が起きたのはこの 2003 年あたりのことです。

SI-V シンプル化インタビューを連日こなしていくうちに、脳の重さが変わってきてしまったのです。

というと、大げさに聞こえますが、自分の首で脳を支えることが難しくなったように感じました。

結果的に、首が、がくっと前に垂れてしまい、手で首を持って歩いたくらいです。

そこで、ちょっと突然ですが、小脳の働きについて、説明をします。

「小脳の主な働きは運動の制御だと考えられてきた。しかし最近の研究から、それは過去の常識となりつつある。知覚情報の統合や情動の制御など、その名に反して小脳が受け持つ役割は大きい。

小脳は脳の下部に位置し、その複雑な神経回路の構成は脊椎動物の進化の過程でほとんど変わらずに保たれてきた。ヒトの場合、小脳は中脳よりも大きく、重要な機能を数多く担っている大脳に次いで2番目に大きな脳だ。大脳皮質と同様に、小脳も幾重にも折りたたまれており、表面にできたひだの数は大脳皮質よりも多い。多くの哺乳類では、ひだのある脳組織は小脳だけだ。ヒトの小脳を平たく延ばすと、その面積は大脳皮質を延ばした面積の半分以上になる。

最近の研究によって、小脳はさまざまな場合に活性化することがわかった。運動とは直接関係のない局面でも活発に働いている。また、小脳のある部分が損傷すると運動機能とは関係のない予想外の障害が生じ、とりわけ知覚情報を素早く正確に認識する機能に障害をきたすこともわかった。

短期記憶や注意力、情動の制御、感情、高度な認識力、計画を立案する能力のほか、統合失調症(分裂病)や自閉症といった精神疾患と関係している可能性も示された。小脳は筋肉に動きの指令を出すというよりも、入ってきた感覚信号を統合する役目を果たしているようだ。

Rethinking the "Lesser Brain" (SCIENTIFIC AMERICAN August 2003)

James M. Bower / Lawrence M. Parsons

まさに、この説明が書かれた本が出版されたのが2003年。

そして、黄色いマーカーで示したところが、SI-Vシンプル化インタビューによる刺激で急激に発達したと見えて、私は感性人間から、注意力や高度な認識力(時にはそれを洞察力と呼んでもよい)、そして計画を立案する能力などが、一気に向上してしま

い、負荷がかかったのではないかと、素人考えでの答えを出していますが、直感や感性で生きている生活から、いわゆる左脳型と言われる思考型に、大きく変化してしまっただけです。(実は左脳型というよりも、小脳活性型とでも言った方がいいのかもしれませんが…)

2003 年以降の私は、それ以前、理屈として説明できなかったことも、様々な角度から見た観点を統合し、それぞれの角度でのエビデンスを引っ張ってくることもできるようになりました。

また、一般的なタイムマネジメントとは異なる、直感型タイムマネジメントがすんなりとできるようになったのも、このころからです。

言わば 2003 年に 5 次元ライフに突入することができたと言っても過言ではないでしょう。

この年の変化がとてもよかったと思うのは、感性や直感的なものはあっても、それをなかなか言葉にすることができないという状態から、かなり抜け出せたという点だと思います。

実際は、私の場合、なかなか言葉にできなくて、失語症のようにつらいという状態ではありませんでしたが、それでも、目に見えないものを言語化するのは、特にチャネリング情報など、難しいものがあります。

それを適切に話せるようになったのがこのころからなのです。

そして、結果的に、こういった思考能力が使えなかったために、「起業」を考えたこともなかったということに気づきました。

左脳的思考ができないのに起業するなんて、武器を持たずに戦争に行くようなものとも言えますから、この時期に起きた変化には感謝しています。



もう少し言及するとすれば、一般的に左脳的な思考と呼ばれるものは、やはりオーディナリーな思考であるということが言えると思います。

常識や一般的な科学にのっついていると言えよいでしょうか…。

しかし、私が 2003 年に脳内変化で身に着けたものは、一般的ではないし、超とつくほど不可思議なことを、一般化できるという能力だと言ってもいいと思います。

大げさですが、この思考は固くないのです。

下地に感性や直感がありますから。

そして、フワフワしていないのです。

全く「手前みそ」な話が続いていて、すでに辟易している方もいるかもしれませんね。

(笑)

でも、本当です。

私はまさにこの年に「5」という数字の持つ、最大の意味である「自由」を手に入れたわけですね。

そして 2006 年に起業することができました。

外からやってきたオファーに乗ったのですが、まさに、準備ができたときに、物事が起こるということを証明するような出来事でした。

しかし、ここで多くの人間関係の整理を余儀なくされました。

スピリチュアルなサービスをしている人が、起業をするということが解せないという人達が去って行きました。

今の状況を見ると、「スピリチュアルは仕事にはいけない」などという考えはよりも、もっと広めて、多くの人たちに気づいてほしいと思っている人たちが、占いやセラピーも含めて、スピリチュアルなセッションを副業にしている人たちもたくさんいます。

私がここで言いたいのは、考え方が異なる人たちと袂を分かつということが、変化の時期には起こりやすいということです。

変化はグラデーションのように、じわじわと色を変えていくものだと思われがちですが、変化の様相は、まるでスーパーマーケットなどのポイントカードのポイントがたまっていくように、じわじわと積み重なったものが、ある日、一気に手に入ったり、あるいは鹿威しのように、突然ひっくりかえったりする「突然性」を持っています。

変化するときは、一秒もかからないのですが、記憶が変化の邪魔をすることがあって、なかなか変化したことが受け入れられないということもあります。

変化が受け入れられないときには、今までの状況から、一人離れて俯瞰できる時間を持つことも大切ですが、すべての変化が、そんな悠長な時間がとれるものでもないわけです。

多忙の中で、平均台の上を歩くような、そんな変化もあるわけですね？

この時期の変化は、あれよあれよという間に、エネルギーがどんどん集まって来て何をしているのかも、わからないくらいの変化だったと、思い返しています。今…。

次の変化の年、

2012年は、2011年に起きた3.11の余波をまだまだ受けていましたが、この年の10月28日はカレマン博士説によるマヤの暦の終わりの日、12月21日はテレンス・マッケナなどの説をもとにしたマヤ暦の終焉の日であり、へび使い座(オヒューカス)と、さそり座の間から銀河の中心に向かう一直線上に太陽も地球も並ぶというすごい直列を経験し、内的な変化を余儀なくされた年だったと思います。

そして、今年2021年は、これらのどの「5」の年とも違う、ある特別な数字が共鳴するときとなっています。

私にとってはの話ですが、変化の年がぞろ目数字の年となっているのです。

はい、そうです。今年私は33歳です…

嘘です…

その倍です

(笑)

つまり、ぞろ目の年齢と変化の5の年が重なる貴重な変化の年と言えます。

と、私のことばかり書いてきましたが、何が言いたいかと言えば、だからこそ、この変

化を肌で感じていると、まあ、そう、伝えたいのです。

なぜ、ぞろ目が？とか、なぜ5が？？？と、疑問に思う方もいるかもしれませんが、数は古代から魔法として扱われたこともあるほどの秘密をもっているとされていて、ピタゴラスのグループでは、数字の秘密を部外者に話したものは、死刑にされたそうです。それほど、数字には意味があるということなのです。

ということで、

読者のみなさんも、それぞれの変化の年を振り返ってみることをお勧めします。

計算の仕方は、今年の数値をまず出します。

2021ですから、 $2+0+2+1=5$

ということで今年が5の年となります。

あなたは、1960年6月5日に生まれたとすると

この6月5日の部分だけを足します。

$6+5=11$

11は $1+1$ で2となりますから

今年の5と2を足して、あなたの今年の数値は7ということになります。

ということは単純に計算して、 $7-5=2$ 、2年前が変化の年だったということがわかりますね。

ということは2021年から2年引けばよいので2019年が変化の年だったということになります。

そこから 9 年前、そのまた 9 年前と計算していくと、あなたの変化の年のリストがで  
きあがります。

そこまで行けたら、その年にあなたは、何歳だったかを思い出してみてください。

その年齢の時に、何があったか…を思い出します。

もしも、難しい時は、その年にどんな社会的な出来事や事件があったかを思い出して  
下さい。

事件などには、少なからずとも感情的なリアクションをしているはずですから、  
そこを切り口としてその年にどんなことがあったかを、思い出せるようになります。

そして、私がやったように書いていくと、変化の流れがつかめます。

プラス、今年は世界の様相が変化するときですから、2 つの数字を照らし合わせて、  
想像を巡らせてみましょう。

どんな風にかとえば、あなたが望む最高に素晴らしいことが、あたかも起きている  
かのように想像を巡らせます。

5 次元に投射された想像が更に 7 次元の透明な知性体のエネルギーを通して実現  
化していくような、素晴らしい想像を巡らせます。

幸せな想像を巡らせてください。

それではそれを ZOOM パーティでシェアしましょう！